

甲子園エリアにおける次世代モビリティ（自動運転車両）の実証実験について（案）

阪神電気鉄道株式会社では、次世代に向けた地域公共交通の確保・維持に取り組むとともに、魅力あふれる沿線の実現に向けて、甲子園エリアにおいて、利便性が高く、住みたい街として選ばれるエリアの形成を目指し、次世代モビリティの実用化に向けた取組みを進めています。

2022年11月には自動運転型車両の私有地・公園内での走行実験を行いました。それに続く取組みとして、今般、車両を変更のうえ、2024年4月に公道走行実験を行い、自動運転での近距離輸送サービスのニーズ把握や、実現に向けた諸課題の検証を行います。

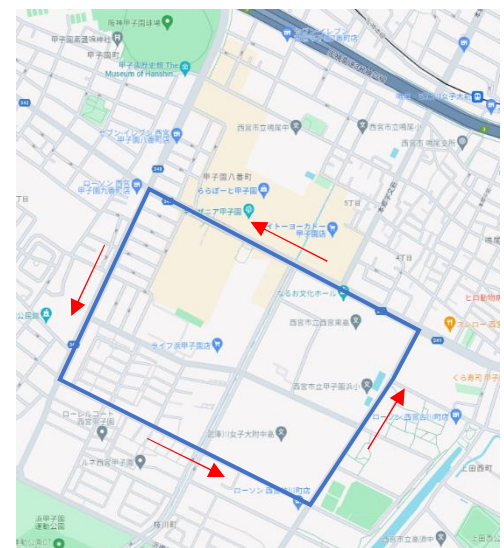
◆実験概要（案）

- ・実施日程：2024年4月上旬予定
（平日1日、土休日1日を想定）
- ・車種：タジマ社製「GSM 8」（10名乗り）
※手動小型電動車両を自動運転対応に改造
- ・車両提供：(株)ティアフォー
- ・システム：自動運転レベル2
（運転者が操作の責任を持った上で、特定の条件下において、システムがハンドルやアクセル、ブレーキなどの操作を自動で行う）
※事前に作成した3Dマップと車両に搭載したセンサーで取得した情報との照合による自動運転
- ・走行速度：時速約20km
- ・走行便数：概ね1時間間隔で1日10便程度運行（予定）
- ・実験概要：ルート内に複数の乗降場所を設け、地域住民等、一般の方の体験乗車を予定（無償）
- ・定員：1回の走行につき最大7名
- ・ルート：甲子園南部エリアの右図ルートを想定
全長約2.6km（歩車分離された道路）
- ・体制：阪神電気鉄道(株)、(株)ティアフォーほか

※今後、道路管理者、警察等との協議により、走行ルートや、便数等の内容が変更になる場合があります。



タジマ社製「GSM8」



走行ルート（想定）